

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	国語	学年	2	教科書	国語表現(大修館書店)
科目	国語表現	クラス	αコース	副教材	国語表現基礎練習ノート(大修館書店) ライトパーフェクト(尚文出版)
		単位数	3	担当者	小笠原 友幸

学習目標	<p>国語表現の授業を通して次のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語で適切かつ効果的に表現することができる。 ・伝え合う力を高めることができる。 ・思考力や想像力を伸ばすことができる。 ・言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る姿勢を身に付けることができる。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を的確に相手に伝えられる能力を養う。 ・他者の意見を聞き、尊重する態度を身につけられるように、グループ学習を取り入れる。 ・学習した表現を理解し、自ら使えるように、書く・話す場面を設定する。 ・授業内でスピーチ発表やレポート作成を取り入れ、表現力を養う。 ・板書以外の要点を自らメモする。 				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a 知識及び技能	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。			
定期考査は行わず、授業内の活動や小テスト、提出物などで上記a,b,cの観点それぞれについて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	【第2部】表現を楽しむ 1 言葉で遊ぶ 7 たばいやゲームをしよう	・さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにする。 ・言葉を意識し、ゲームをとおして語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 ・辞書の言葉の定義のしかたを意識し、わかりやすく適切な定義を書く。	○	○	○	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、言葉遊びの中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 「書くこと」において、目的や意図に応じて適切な題材を決め、語句や表現の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。 さまざまな言葉遊びに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
	【第1部】表現力を培う 1 言葉と出会い ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・実践トレーニング①	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方を意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。	○	○	○	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などをふまえて、自分の文章の特長や課題をとり直ししたりしている。 「ポイント」の読み取りや練習問題に興味をもって取り組み、分かりやすい文を書くことへの理解に努めようとしている。	
前期末	【第1部】表現力を培う 2 伝える、伝え合う ・絵や写真を見て書く ・マイニュース記事を書く	・聞くこと、話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションについて新たな発見をする。 ・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	○	○	○	話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、自己紹介している。 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、内容を検討している。 伝え合うことの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ③小テスト
	【第1部】表現力を培う 読書のひろば ・ピリオリバトルをしよう ・リーダーズシアターを開こう	・読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。 ・聞き手を意識し、本の魅力や、登場人物の心情や情景が思い浮かぶような表現のしかたを工夫する。	○	○	○	自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。 お気に入りの本の紹介や登場人物の心情を表現する活動をおとし、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を理解し、自分の思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。	
後期中間	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう ・ネット社会との付き合い方 ・ネットを活用した情報収集 ・メディアと情報	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	○	○	○	a 通信文ごとの形式の違いや、頭語と結語、時候の挨拶などを理解し、正しい表現や言葉遣いや漢字を用いている。 相手や自分の立場、目的を考えながら、適切な電話対応やメール文章を作成している。 b 「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、ネット社会との付き合い方に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 c さまざまなメディアの特徴とそれから得られる情報について興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト
学年末	【第2部】表現を楽しむ 4 魅力的なポスターを作る 6 働く人にインタビュー 12 こちら悩みごと相談室	・伝えたいことが効果的に伝わるよう、レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る。 ・聞きたいことを明確にし、質問のしかたや話し方を工夫しながらインタビューする。 ・相手を意識し、相手の気持ちに寄り添って、相談の回答を書く。	○	○	○	書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。 「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 b 「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 c さまざまな活動に意欲的に取り組もうとしている。	①授業態度 ・発言 ・取り組み ②課題提出 ・提出状況 ・取り組み ③小テスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地理歴史	学年	2	教科書	詳説世界史 (山川出版社)
科目	世界史探究	コース	αコース	副教材	グローバルワイド世界史図表 (第一学習社)
		単位数	2	担当者	吉田 大樹

学習目標	社会的な事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の獲得を目指す。	
学習方法	(1)単元にテーマを設定し、課題探究的な学習をベースとする。副教材と小テストで日常的に知識理解を図る。 (2)単元の学習に、学習内容が可視化できる教具を活用したり、ICT機器を活用したりしながら学習する。 (3)主体的かつ対話的で深い学びを促すために、ペアワークやグループワークを随時用いて学習する。 (4)現代における社会的な事象の「見方・考え方」と、歴史的な「見方・考え方」をつなげられるように学習する。 (5)日本との関連や、現代社会におけるグローバルな課題と、世界の歴史との関わりを学習する。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	b 思考力・判断力・表現力	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	c 主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	世界史へのまなざし 第1章 諸地域の歴史的特質の形成	1 自然環境と人類の進化 2 文明の誕生 3 古代メソポタミア文明とその周辺 4 南アジアの古代文明 5 中国の古代文明 6 南北アメリカ文明	○	○	○	a: 古代国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。古代国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 古代国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 古代国家と社会や文化の特色に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成	○	○	○		①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
前期末	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 キリシヤ人の都市国家 3 ローマと地中海世界 4 キリスト教の成立と発展	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ社会の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	
後期中間	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	1 イスラーム教の諸地域への伝播 2 西アジアの動向	○	○	○	a: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、それに関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: イスラーム世界やヨーロッパ中世世界の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 2 東ヨーロッパ世界の展開 3 西ヨーロッパ世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	
後期末	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	1 アジア諸地域の自立化と宋 2 モンゴルの大帝国	○	○	○	a: 近世国家と社会や文化の特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。近世国家と社会や文化の特色に関する諸資料を収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近世国家と社会や文化の特色から課題を見だし、その過程や結果を適切に考察したり、表現したりしている。 c: 近世国家と社会や文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)
	第9章 大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	
	第10章 アジアの諸地域と繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	○	○	○	①授業態度・小テストの実施 ②授業成果物の出来ばえ ③課題・レポート等の提出 ④定期考査と解き直し(復習)	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	公民	学年	2	教科書	公共 新訂版 (東京法令出版)
科目	公共	コース	αコース	副教材	なし
		単位数	2	担当者	竹谷 涼太

学習目標	①現代の諸課題を見つめることを通して、グローバル化する国際社会、多様化する身近な社会の形成者として、またよりよい社会の構築や人間としての在り方や生き方についての自覚を深めることができる。 ②課題解決のための選択や判断に資する見方・考え方を養い、公共的な空間に生き国民主権を担う公民としての資質・能力を育成することができる。	
学習方法	(1)単元の基礎となる問いを設定し、生徒自身による「問いを表現する」機会も設定する。 (2)ピアワークを展開し、主体的・対話的で深い学びにつながる言語活動を重視した授業を行う。 (3)生徒の将来像を意識して、DXに対応したICT授業をよりいっそう推進する。 (4)現代の諸課題に関するさまざまな資料を通して、社会的な事象における「見方・考え方」や公民的な「見方・考え方」を働かせる。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	現代の社会的な事象と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	b 思考力・判断力・表現力	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的な事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参画、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
定期考査については、上記 a, b, c の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 第1章 公共的な空間をつくる私たちが	①社会のなかの私たち ②日本の文化と社会 ③青年期とは ④自己形成の課題 ⑤ライフ・キャリアの形成 ⑥社会の多様性 ⑦宗教と文化	○	○	○	a: 選択・判断の手掛かりとして、個人や社会全体の幸福、公正などの義務を重視する考え方を理解している。諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能が身に付いている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	①幸福とは ②自由とは ③正義とは ④公正とは	○	○	○	b: 公共的な空間における基本原理について、個人と社会の関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3章 公共的な空間における基本原理と日本国憲法	①人間の尊厳と平等 ②民主政治と国民主権 ③消極的自由と公共の福祉 ④積極的自由と義務 ⑤法の支配と人権保障 ⑥平和主義	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨を講解、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
前期末	第2編 第1章 日本の政治機構と政治参加	①法の機能と限界 ②国会の運営と権限 ③内閣と行政の民主化 ④世界の政治体制 ⑤裁判所と人権保障 ⑥私たちと裁判 ⑦地方自治のしくみ ⑧選挙のしくみと課題 ⑨政党政治 ⑩国民と政治参加 ⑪野党活動と市民活動	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨を講解、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第2章 経済のしくみ	①市場のしくみ ②市場の失敗 ③現代の企業 ④国民所得 ⑤景気変動と物価の動き ⑥財政の役割 ⑦財政の課題 ⑧企業のしくみと働き ⑨中央銀行と金融の自由化	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨を講解、まとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出

後期中間	第3章 変化する日本経済	①戦後復興から高度経済成長 ②安定成長からバブル経済へ ③バブル後の日本経済 ④日本の中小企業 ⑤日本の農業問題 ⑥公害の防止と環境保全 ⑦エネルギーと循環型社会	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第4章 豊かな生活の実現	①私たちの生活と契約 ②消費者主権 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割 ⑥社会保障制度の課題	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第5章 国際政治のしくみと銅鏡	①国家主権と国際法 ②人権保障の広がり ③国際連合の役割と課題 ④第二次世界大戦後の国際社会 ⑤冷戦終結後の国際社会 ⑥人権・民族・難民問題 ⑦核兵器の廃絶と国際平和 ⑧日本の安全保障の現状	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
後期末	第6章 国際経済のしくみと動向	①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みと変化 ④グローバル化する経済	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第7章 国際社会の現状と課題	①地域統合の進展 ②南北問題 ③新興市場国 ④地球規模の諸課題 ⑤地球環境問題 ⑥日本の役割	○	○	○	a: 諸資料から、必要な情報・知識を適切に収集・理解し、要旨の読み取りやまとめる技能が身に付いている。 b: 自立した主体として解決が求められる具体的な主題に、合意形成や社会参画を意識して、協働して考察・構想したり、論拠をもって表現したりしている。 c: よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社会に参画する自立した主体としての自覚を深めている。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出
	第3編 持続可能な社会をつくるために	①民主主義を考えよう ②日本の将来問題 ③科学技術の進展 ④外国人との共生	○	○	○	現代の諸課題から、その課題の解決に向けて事実を基に協議して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	1 定期考査、小テスト 2 活動状況(ピアワーク等) 3 課題プリント等の提出

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	40	30	10
	思考力・判断力・表現力	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	2年	教科書	最新 数学Ⅱ (数研出版)
科目	数学Ⅱ	クラス	αコース	副教材	3ROUND数学Ⅱ・B (数研出版)
		単位数	3	担当者	五日市 純哉・佐々木 卓磨

学習目標	① 複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法の基本的な問題を解くことができる。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを世の中の事象に活用し数学的に考察することができる。 ③ 数学的な見方や考え方の良さを認識し、仲間と協力して問題を解決することができる。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時または開始時に、授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。	
学習評価	評価の観点	
	評価の趣旨	
	a 知識及び技能	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 式と証明	式の展開と因数分解	○		○	[a] ・式の特徴を捉えて適切に公式を用いることができる。 ・分数式の演算ができ、因数分解や解の公式の意味を理解して、方程式の解を求めることができる。 ・因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。 [b] ・式の特徴や関係を理解し、考察することができる。 ・等式や不等式について、根拠を正しく示した上で証明することができる。 [c] ・式の演算や性質及び新しい数に関心を持ち、展開や因数分解、証明などを、具体的な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ③定期考査
		二項定理		○	○		
		分数式の計算	○		○		
	2章 複素数と方程式	複素数	○		○		
		2次方程式の解と判別式		○	○		
		解と係数の関係		○	○		
		整式の割り算	○		○		
前期末	3章 図形と方程式	因数定理・高次方程式		○	○		
		等式・不等式の証明		○	○		
		直線上と平面上の点	○		○		
		直線の方程式	○		○		
		2直線の関係	○		○		
後期中間	4章 三角関数	円の方程式	○		○	[a] ・直線や円の方程式等の仕組みを理解し、図形と方程式の関係を多面的に考察、表現することができる。 [b] ・図形の性質や定理について論理的に考え、自分なりに考察することができる。 [c] ・三角関数の考え方や新しい角の考え方に関心を持ち、それらを身近な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ③定期考査
		円と直線		○	○		
		軌跡		○	○		
		不等式と領域		○	○		
		三角比・一般角	○		○		
後期末	5章 指数関数と対数関数	三角関数	○		○	[a] ・三角関数の考えにおいて、グラフに表すなど、事象を数学的に表現・処理することができる。 ・三角関数の性質を理解し、三角関数における定理や公式を適切に活用することができる。 [b] ・図形の性質や定理について論理的に考え、自分なりに考察することができる。 [c] ・三角関数の考え方や新しい角の考え方に関心を持ち、それらを身近な事象の考察に活用しようとする。	①授業態度 (1)発言 (2)取組状況 (3)評価テスト ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組状況 ③定期考査
		弧度法	○		○		
		三角関数の相互関係	○		○		
		三角関数のグラフ		○	○		
		加法定理		○	○		
		2倍角・半角・合成		○	○		
		指数の拡張	○		○		
累乗根	○		○				
指数関数のグラフ		○	○				
対数とその性質	○		○				
対数関数のグラフ		○	○				
常用対数		○	○				

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	2	教科書	改訂版 化学基礎(数研出版)
科目	化学基礎	クラス	αコース	副教材	ネオバルノート 化学基礎(第一学習社)
		単位数	2	担当者	堤 友理江

学習目標	<p>化学基礎の学習を通して、次のことができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校で学んだ内容をもとに、物質の構成と化学結合、変化について詳しく理解する。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○授業内容についての演習問題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ○実験機器、器具などの基本操作ができる。 ○化学基礎に関する基礎・基本を習得する。

学習評価	評価の観点		評価の趣旨	
	a 知識及び技能		自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識および技能を身に付けている。	
	b 思考力・判断力・表現力		自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
	c 主体的に学習に取り組む態度		自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 物質の構成と化学結合	純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 物質の性質を理解し、適切分離方法や元素検出方法をあげることができる。それらの方法を実践することができる。 b 物質を分離する操作がどのようなものであるかや物質の違いを説明することができる。 c 身のまわりの物質の性質や日常生活の中の物質の状態変化について興味をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第1編 物質の構成と化学結合	原子とその構造 イオン 周期表	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 原子の構成粒子、電子配置、イオン、イオン化エネルギー、周期表について理解している。 b どのような原子が安定であるか、電子配置に基づいて説明できる。原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 c 同じ元素でも粒子の構成が異なるものがあることや原子とイオンの違いについて興味をもっている。 	
前期末	第1編 物質の構成と化学結合	第3章 粒子の結合 イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 組成式を書く方法を理解している。各結晶の性質の違いを理解している。さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。 b 各結晶の性質や違いについて説明することができる。分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる。 c 各結晶にはどのような物質があるかに興味をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査

後期中間	第2編 物質の変化	第1章 物質と化学反応式 原子量・分子量・式量 物質の濃度 溶液の濃度 化学反応式と物質	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。実際の物質の量を物質量で表せる。濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。正しい化学反応式が表せる。 b 粒子の数・質量・気体の体積と物質量に関する計算ができる。2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。 c 多数の粒子を数えることは困難なので、まとめて扱うことが便利だということに気づく。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
後期末	第2編 物質の変化	第2章 酸と塩基の反応 酸・塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 酸・塩基の定義や水溶液中のH⁺の濃度をpHで表す方法を理解している。中和反応を化学反応式で表すことができる。中和滴定で使用するホールビペット、ビュレット、メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。 b 酸と塩基を見きわめられる。塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。中和の量的関係を数式で表すことができる。滴定曲線におけるpH変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 c 酸・塩基に関する事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度 ②演習プリント・レポート ③課題 ④小テスト ⑤定期考査
	第2編 物質の変化	第3章 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> a 酸化還元の定義を理解している。酸化還元反応の様子を、色の変化をもとに判断できる。酸の違いによる金属の反応性を理解している。 b 酸化数から酸化還元反応を判断できる。酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを説明できる。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができる。 c 酸化還元反応に関する事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求する。 	

評価の量み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	体育	クラス	αコース	副教材	
		単位数	2	担当者	田中 詔・狐崎 亜美

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○各運動における基本的な技術やルール、特性を理解し、安定して発揮する。 ○運動の課題を発見し、解決に向けて練習方法や戦術を工夫する。 ○積極的に運動に取り組み、継続し、協力・公正・責任といった態度を身に着ける。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ○ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力したり交流したりする。 ○教科書や副教材などから、競技のルールや健康、安全面についての理解を深める。 	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを伝える力を養う。
	c 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a 運動を継続する意義、体力の構成要素、運動の原則を理解している。 b 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c 体づくり運動に主体的に取り組んでいる。健康・安全を確保しようとする。	観察 学習カード
	C 陸上競技	短距離走 跳躍 投てき	○	○	○	a: 体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、各種目の技術を身に付けている。 b: 課題解決の過程を通し、取り組み方を工夫し、自己や仲間の考えを他者に伝えている。 c: 主体的に取り組むルールやマナーと大切にしようとする。自己の責任を果たそうとする。	観察 スキルテスト 学習カード
前期末	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a. 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c: 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a. 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。安定したボール操作と連携した動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c. 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	H 体育理論 2 運動・スポーツの学び方	1 技能と体力 2 技術と戦術	○	○	○	a 技能と体力は関連していること、体力の高め方や技術の学習の仕方を理解している。技術や戦術、ルールは変わり続けていることを理解している。 b 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断し、他者に伝える。 c 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組んでいる。	観察 提出物 筆記テスト
後期中間	G ダンス ウ:現代的なリズムのダンス	現在のリズムダンス グループ学習	○	○	○	a リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊ることができる。 b 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 c ダンスに主体的に取り組んでいる。	観察 学習カード 発表会
	E 球技 ア:ゴール型	サッカー	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。安定したボール操作と空間を作る動きでゴール前への侵入などから攻防をする。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 学習カード
	E 球技 ウ:ベースボール型	ソフトボール	○	○	○	a バット操作と走塁での攻撃、ボール操作と状況に応じた守備によって攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 提出物 筆記テスト
	H 体育理論 2 運動・スポーツの学び方	3 技能の上達過程と練習 4 効果的な動きのメカニズム	○	○	○	a 技能の上達過程には段階があり、過程に応じた練習・観察の方法があることを理解している。 b 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断し、他者に伝える。 c 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組んでいる。	観察 提出物 筆記テスト
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	a 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。安定したボール操作と連携した動きで空いた場所をめぐる攻防ができる。 b 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 c 主体的に取り組むフェアなプレイを大切にしようとする。合意形成に貢献しようとする。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしている。互いに助け合おうとしている。	観察 学習カード
	H 体育理論 2 運動・スポーツの学び方	5 体カトレーニング 6 スポーツでの安全確保	○	○	○	a 体力とトレーニングの基本理論について理解している。 b 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断し、他者に伝えている。 c 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組んでいる。	観察 提出物 筆記テスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	2	教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
科目	保健	クラス	αコース	副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)
		単位数	1	担当者	狐崎 亜実

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○健康に関する基礎的な内容を理解し、必要な技能を身に付け、実生活に生かす。 ○健康に関する課題を見つけ、考え適切に表現し、他者に伝えることができる。 ○健康について主体的に関わり、学び続けようとする姿勢を育てる。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。 ○ノートや副教材等を利用し、授業内容についての理解を深め、課題や演習問題に取り組む。 	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	現代社会と健康、社会生活と健康について、生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境を考え、授業で得た知識を元に健康的な生活を送るための選択や活用ができる。
	b 思考力・判断力・表現力	健康についての自他や社会の課題を発見し、計画的な解決をに向けて思考し判断し、目的状況に応じて他者に伝えることができる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代社会、安全な社会生活について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	3. 生涯を通じる健康	1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。 b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。 c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出
		6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	○	○	○	a 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解している。 b 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明できる。 c 生涯の各段階における健康や労働と健康について理解し、主体的に学習に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

後期中間	4. 健康を支える環境づくり	1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。 b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。 c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出
		7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	○	○	○	a 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解している。 b 健康を支える環境づくりに関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明できる。 c 健康を支える健康づくりである環境と健康や食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について理解し、主体的に取り組もうとしている。	①授業態度 ②課題提出 ③定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩手高等学校

教科	芸術	学年	2	教科書	MOUSA2(教育芸術社)
科目	音楽Ⅱ	クラス	αコース	副教材	改訂 高校生の歌集ついで(九州高等学校音楽教育研究会) 音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)
		単位数	2	担当者	細田富士子

学習目標
 ○生涯にわたって音楽を愛好するために必要な、基本的音楽能力を身に付けることができる。
 ○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身に付けることができる。
 ○幅広い音楽文化に対して興味関心をもち、それらの良さを味わいながら理解することができる。
 ○グループ活動やアンサンブル活動を通して、曲の解釈や好みの違いに気づき、互いの意見を尊重しながら理解を深めることができる。

学習方法
 ○提示された目標を達成できるように、授業に臨む。
 ○基本的な知識・技能の学習を繰り返し行い、活用できる能力を身に付ける。
 ○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に考え、活動する。
 ○我が国や郷土の伝統音楽を含む魅力的な教材から幅広い音楽文化の良さを味わう。
 ○単元毎に実技試験や筆記試験に臨み、知識・技能の定着を実感する。

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能 b 思考力・判断力・表現力 c 主体的に学習に取り組む態度	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに表現している。 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよきや美しさを味わって聴いている。 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	日本歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう 日本音楽の流れ	日本歌曲に親しみ、特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、表現を工夫して個性豊かに独唱する	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう	和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する	○	○	○	a. 創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付け、楽器で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と和楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に心をもち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	
前期末	合唱	各パートの役割を認識するとともに、全体の響きや表現上の効果に留意しながら、表現を工夫して合唱をする喜びを味わう	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、合唱やヴォイス・アンサンブルなどの表現形態の特徴や各パートの役割に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	変奏や編曲に挑戦しよう	身近な曲の旋律をもとに、音楽を形づくっている要素の動きを変えることで、曲の表情や雰囲気を変化させ、個性豊かに変奏や編曲をする	○	○	○	a. 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深めている。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて独自の表現意図をもっている。 c. 音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	

後期中間	表現を工夫してギターを演奏しよう	ギターの音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する	○	○	○	a. 創意工夫を生かした楽器表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体を使い方などの技能を身に付け、楽器で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想とギターの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう 創作(作詞)	発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いやすい曲を通して、発声などの技能を身に付けながら、表現を工夫して個性豊かに歌うとともに、主体的・協働的に学習に取り組む意欲を高める	○	○	○	a. 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、他者との調和を意識して演奏することに心をもち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	
後期末	ポップスの特徴を理解して歌おう	日本や外国のポップスをリズムにのって歌ったり、曲に込められた思いを味わったりしながら、曲想と歌詞との関わりなどを理解し、個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう 創作(作詞)	発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いやすい曲を通して、発声などの技能を身に付けながら、表現を工夫して個性豊かに歌うとともに、主体的・協働的に学習に取り組む意欲を高める	○	○	○	a. 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と楽器の音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、他者との調和を意識して演奏することに心をもち、主体的・協働的に楽器の学習活動に取り組もうとしている。	
後期末	ミュージカル・ナンバーを歌おう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。 c. 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して個性豊かに歌う	○	○	○	a. 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 b. 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さや美しさを深く味わって聴いている。 c. 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	2	教科書	書Ⅱ(教育図書)
科目	書道Ⅱ	クラス	αコース	副教材	書学習の資料 (岩手県高教研書道部会)
		単位数	2	担当者	武田由起子

学習目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することができる。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けることができる。 (2) 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい深く捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
学習方法	○授業において書と向き合い、作品制作に取り組む。 ○単元毎に実技試験(作品提出)に臨み、知識・技術の定着を実感する。 ※生徒の実情に合わせて全体・個別指導を組み合わせ、適切な課題を提示する。	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	b 思考力・判断力・表現力	・書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	漢字の書 ・篆書	「中書文」 「召尊」 「石鼓文」 「泰山刻石」	○	○	○	a: 篆書を構成する様々な要素について理解している。 篆書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、篆書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の意図や篆書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
前期末	・隷書	「石門頌」 「石門頌」 「石門頌」 「石門頌」	○	○	○	a: 隷書を構成する様々な要素について理解している。 隷書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、隷書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の意図や篆書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出

後期中間	・草書・行書	「十七帖」 「集王聖教序」	○	○	○	a: 草書、行書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 b: 草書、行書の古典の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって捉えている。 c: 草書、行書よさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	・楷書	「業字子碑」 「船平公造像記」 「鄭義下碑」 「帖猛龍碑」	○	○	○	a: 楷書を構成する様々な要素について理解している。 楷書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、草書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の意図や篆書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	
後期末	仮名の書 ・行書きの書	「關戸本古今和歌集」 「高野切古今和歌集(第一種)」	○	○	○	a: 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 仮名の書の古典の価値とその根拠について考え、書よさや美しさを味わって捉えている。 c: 自身の意図や仮名の書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	・散らし書きの書	「升色紙」 「継色紙」 「寸松庵色紙」	○	○	○	a: 仮名の書を構成する様々な要素について理解している。 仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、仮名の書の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の意図や仮名の書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	
	・調和体の書	創作 ・仮名の書の特徴を知って感じ仮名交じりの書の作品制作をしよう	○	○	○	a: 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素について理解している。 目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能を身に付けている。 b: 書道Ⅰの学習を踏まえ、漢字仮名交じりの書の目的や用途、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c: 自身の意図や漢字仮名交じりの書の特徴に基づく、幅広い表現の学習活動に、主体的に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	外国語	学年	2	教科書	Power On English Communication II (東京書籍)
科目	英語 コミュニケーション II	クラス	αコース	副教材	クラウン チャンクで英単語Standard(三省堂) 英語マスターノート(増進堂)
		単位数	4	担当者	近藤 孝

学習目標	コミュニケーション英語 II の授業を通して次のことができるようにする。 ①必要な情報を聞いたり、読んだりして、相手の意図を把握したり、概要、要点を理解することができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見を表現したり、伝えあったりすることができる。 ③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。 ④日々の単語学習やペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。				
学習方法	①毎時のゴールに向かい見通しをもって学習に取り組む。 ②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。 ③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。 ④日々の単語学習やワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的に行い、コミュニケーションを図ろうとしている。			
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	Lesson 1 Play me, I'm Yours	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a 助動詞、受け身、S+V+Oを用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、必要な情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
前期末	Lesson 2 Ethical Fashion	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a SVOC, 知覚動詞, 使役動詞を用い、情報や自分の考えを伝えることができる。 b ファストファッションの問題やエシカルファッションについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c ファストファッション問題やエシカルファッションについて、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	Lesson 3 One for All, All for One	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 現在完了, 過去完了, 仮定法if節を用い、情報や考えを伝えることができる。 b マイケル・リーチ選手について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c マイケル・リーチ選手について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期中間	Lesson 4 Vending Machines	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 主格・目的格の関係代名詞及び非制限用法を用い、情報や考えを伝えることができる。 b 日本と海外の自動販売機について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 日本と海外の自動販売機について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期末	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a 助動詞+受け身, SV分詞, if名詞節, It seems [appears]を用い、情報や考えを伝えることができる。 b プレイルノイエについて読み、情報や自分の考えを表現できる。 c プレイルノイエについて、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	Lesson 6 New Banknotes	音読 定着→演習 自己表現	○	○	○	a It is said that, It is 形容詞 that/to 不定詞, 助動詞+have+ppを用い、英語で表現できる。 b 新紙幣とキャッシュレス社会について読み、情報や自分の考えを表現できる。 c 新紙幣とキャッシュレス社会について、情報や意図を把握しようとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
前期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期末	知識・技能	40	25	15
	思考・判断・表現	40	25	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	2年	教科書	ビジネス基礎 新訂版 (実教出版)
科目	ビジネス基礎	クラス	αコース	副教材	ビジネス基礎準拠問題集(実教)
		単位数	2	担当者	石倉 節子

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の要点を理解し、演習に取り組み基礎的基本的な知識と技術を身に付ける。 ・企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向など客観的な資料に基づいて、課題を解決する力を養う。 				
学習評価	評価の観点	評価の趣旨			
	a 知識及び技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて、課題への対応策を考えている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。			
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 商業の学習とビジネス	1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス	○			・商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解している。 ・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
	第2章 ビジネスとコミュニケーション	1. コミュニケーション 2. ビジスマナー		○		・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。 ・ビジネスの場を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	
	第3章 経済と流通の基礎	1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通			○	・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体、協働的に取り組んでいる。 ・情報を入力して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的、協働的に取り組んでいる。 ・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。	
前期末	第4章 さまざまなビジネス	1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 物流業 5. 金融業 6. 情報通信業	○			・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	
					○	・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的、協働的に取り組んでいる。	

後期中間	第5章 企業活動の基礎	1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用	○			・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。	
					○	・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的、協働的に取り組んでいる。	
後期末	第6章 ビジネスと売買取引 第7章 ビジネス計算 第8章 身近な地域のビジネス	1. 売買取引の手順 2. 代金決済	○			・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・さまざまな地域のビジネスについて理解している。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
		1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用		○		・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。	
		1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向			○	・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的、協働的に取り組んでいる。 ・ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・身近なビジネスについて自ら学び、ビジネスの振興による地域の発展に主体的、協働的に取り組んでいる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	商業	学年	2	教科書	新簿記 新訂版(実教出版)
科目	簿記	クラス	αコース	副教材	学習と検定 反復式簿記問題集全商3級
		単位数	3	担当者	石倉 節子

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習の要点を理解し、演習に取り組み基礎的な知識と技術を身に付ける。 企業の会計処理について、座学やグループ学習による言語活動を取り入れ、理解の定着を図る。 	
学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	・企業会計の視点から取引を記録・計算・整理するなど技術を学び、企業分析に対する基礎的な知識を身に付ける。
	b 思考力・判断力・表現力	・記録の技術である仕訳や帳簿整理から具体的な企業の取引を分析し、企業理解の基礎的な考え方を身に付ける。
	c 主体的に学習に取り組む態度	・経済社会の主体となる企業の活動に対し興味・関心をもち、企業活動を理解することで経済社会に対する学びの姿勢を身に付ける。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 簿記の基礎	第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 第8章 精算表	○			<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味・役割を明らかにし、記帳の重要性について理解する。 資産、負債、資本の意味を明らかにし、相互関係を理解する。 収益、費用の意味を明らかにし、理解する。 仕訳の意味を明らかにし、理解する。 仕訳帳の形式、記入法を理解し、記帳の習熟を深める。 試算表・精算表の意味を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> 簿記の基礎を学び、記帳の重要性を理解し、適切に表現することができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 個人企業の会計について理解を深めようとしており、記帳方法の習得に取り組んでいる。 	
前期末	第1編 簿記の基礎 第2編 取引の記帳	第9章 決算 第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売上の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形取引 第14章 その他の債権・債務の取引 第15章 固定資産の取引 第16章 個人企業の資本の取引 第17章 販売費と一般管理、税金の取引	○			<ul style="list-style-type: none"> 決算手続き全体の流れを理解させ、その記帳の習熟を深める。 分記法の復習から3分法による商品売上の記帳方法を理解する。 分記法の復習から3分法による商品売上の記帳方法を理解する。 掛け取引の意味および売掛金・買掛金の意味を正確に理解する。 手形債権・手形債務の発生・消滅の関係を明確に理解する。 その他の債権債務について理解する。 固定資産の意味と種類について明らかにする。 企業の資本の記帳方法について理解する。 販売費及び一般管理費勘定で統括した場合の記帳方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> 各種取引の内容を正確に読み取り、適切な記帳方法で表現することができる。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 各種帳簿の記帳方法に精通し、丁寧な記帳を身に付けようと努力している。 	
後期中間	第3編 決算(その1) 第4編 会計帳簿と帳簿組織	第18章 決算整理 第19章 8桁精算表 第20章 帳簿決算 第21章 会計帳簿 第22章 伝票の利用 全商簿記実務検定演習	○			<ul style="list-style-type: none"> 決算整理を含む決算手続き全体の流れを、帳簿記入を通じて理解する。 8桁精算表が作れるように習熟を深める。 総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法を理解する。 分課制度と帳簿組織との関連について理解する。 3伝票制について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> 精算表の作成から決算処理までの流れを理解し、必要な帳簿の記入を正確に身に付ける。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 決算の基礎を理解し、経営者の立場で記帳方法を身に付ける。 	
後期末	第4編 会計帳簿と帳簿組織	第23章 会計ソフトウェアの活用 第24章 特殊な手形の取引 第25章 有価証券の取引 第26章 本支店会計 全商簿記実務検定演習	○			<ul style="list-style-type: none"> 取引の記帳に会計ソフトウェアを活用することによる利点を理解する。 手形の割引の意味を明らかにし、その記帳方法を理解する。 有価証券の取得・売却の記帳方法を理解する。 本店集中計算制度の意味と支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度
				○		<ul style="list-style-type: none"> 本支店取引を正確に記帳し、株式会社の取引についても正しい記帳ができています。 	
					○	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な本支店取引を理解しようとして、発展学習としての株式会社への理解にも主体的に取り組んでいる。 	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	2	教科書	フードデザイン Food Changes LIFE (教員図書)
科目	フードデザイン	クラス	αコース	副教材	フードデザイン Food Changes LIFEノート (教員図書)
		単位数	3	担当者	金石知佳

学習目標	1 食に関わる基本的な知識と技術を習得することができる。 2 自分の現在や将来の生活について、社会生活や家庭生活と結び付けて考えることができる。 3 グループ学習・実習を通じて、自分以外の意見を受け入れ、協調性を身に付けながら、理解を深めることができる。
------	---

学習方法	1 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、自立した食生活と充実向上をめざし、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 グループ学習や実習を充実させ、実践的・体験的な学習を行う。 4 プリントを用いて、知識理解だけでなく、考えをまとめ、発表する場を増やし、表現する学習も行う。
------	--

学習評価	評価の観点	評価の趣旨
	a 知識及び技能	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成する要素として栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付け、実践できる技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	食生活を総合的に捉え計画・実践するための課題を見だし、思考を深め、食育の推進のために創意工夫し表現できる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	食の役割に関心を持ち、作ることから食べるところまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身に付けようとする。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 健康と食生活	オリエンテーション 食事の意義と役割 食を取り巻く現状	○	○	○	a 毎日の食事にどのような役割があるか理解している。日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。よくない食生活と、それによって引き起こされる生活習慣病について理解している。 b 生活習慣病の原因や症状を調べ、話し合ったり発表したりすることができる。 c 青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。食事の役割を自分ごととして捉え、自分の食生活を見直そうとしている。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 検定への取組(実技) 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	第2章 栄養素と食品	栄養素と消化・吸収 各栄養素のはたらき ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・ビタミン ・無機質(ミネラル)	○	○	○	a からだの構成成分と栄養素について基礎的な知識を身に付けている。栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 b からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができる。 c 体の構成成分と栄養素の学習を、自らの健康と関連づけて考えようとしている。炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質(ミネラル)などの種類、役割について食生活と関連づけて関心をもちようとしている。	
	食物調理3級検定対策	実技試験対策 (調理実習)	○	○	○	a 正しい包丁の持ち方と、課題をこなせる技術を身に付けている。実技試験に向けた知識や技術を理解している。 b 実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。 c 検定に対して関心をもって意欲的に取り組んでいる。	
前期末	食物調理3級検定対策・本番	実技試験対策 (調理実習) 食物調理技術検定3級	○	○	○	a 正しい包丁の持ち方と、課題をこなせる技術を身に付けている。実技試験に向けた知識や技術を理解している。 b 実技試験対策で出た課題を言語化し、意欲的にまとめることができる。 c 検定に対して関心をもって意欲的に取り組んでいる。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 検定への取組(実技) 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート
	第3章 食品の選択と取扱い	食品の衛生と安全 食品選択のコツ	○	○	○	a 食中毒の特徴を知り、リスクを減らす技術を身に付けている。食品の安全を守るためにさまざまな制度があることを理解している。 b 食中毒が起る状況や状態を理解し、注意しなければならない場面について考えている。 c 日常生活で食品の表示をチェックし、食生活をより良くするために活用しようとしている。	
	お弁当を作ってみよう	お弁当作りのポイント 献立作成 調理実習 お弁当甲子園応募 (コンクール)	○	○	○	a 食品の衛生に関心を持ち、生活に活かそうとしている。 b お弁当作りに必要な調理技術(切る・加熱・味付け)を安全に行えている。 c 栄養バランス、彩り、食材の特徴、衛生など複数の要素を踏まえ、目的に応じたお弁当を作成できている。 a お弁当の目的(誰のため・どのような場面)を踏まえた献立の工夫ができる。盛り付け・色彩・バランスなどを意図して表現できる。 b お弁当作成においての過程・課題を振り返り、レポートをまとめることができる。 c 実習において、準備・片付け・衛生管理・安全に主体的に取り組んでいる。調理レポートの作成に意欲的に取り組んでいる。	

後期中間	第5章 各国料理とテーブルコーディネート	テーブルコーディネート 小物作成	○	○	○	a 目的に応じたテーブルコーディネートの技術を身に付けている。 b 季節に応じた着置きを制作することができる。 c 食事のテーブルに応じた色彩や照明、小物、食卓花など、食事空間の演出を判断し、工夫している。 d 季節や食事の目的をふまえて、食卓を意欲的に演出しようとしている。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	第2章 栄養素と食品	食品とその特徴 ・穀類 ・いも類 ・砂糖類、甘味料 ・豆類 ・種実類 ・野菜類 ・果実類	○	○	○	a 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解している。身の回りの加工食品と、加工の目的を理解している。健康食品の種類と気をつけるべき情報を収集、整理している。 b 栄養素と食品の学習を結びつけ、日常の食事の改善点について考えている。食品の加工について身近な事例と結びつけて考察している。実験結果を科学的な視点で考察し、レポートをまとめることができる。 c 食品の種類と特徴についての知識を、自分や家族の健康のために活用しようとしている。食品の調理性などについて、実験などを通じて科学的に取り組もうとしている。	
	調理実験・実習	調理実験 調理実習	○	○	○	a 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 b 調理実習後に科学的な視点を持ち、レポートをまとめることができる。 c 調理実習に意欲、関心をもって取り組もうとしている。調理レポートの作成に意欲的に取り組もうとしている。	
後期末	第2章 栄養素と食品	食品とその特徴 ・きのこ類 ・海藻類 ・魚介類 ・肉類 ・卵類 ・牛乳、乳製品 ・油脂類 ・寒天・ゼラチン	○	○	○	a 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解している。身の回りの加工食品と、加工の目的を理解している。健康食品の種類と気をつけるべき情報を収集、整理している。 b 栄養素と食品の学習を結びつけ、日常の食事の改善点について考えている。食品の加工について身近な事例と結びつけて考察している。実験結果を科学的な視点で考察し、レポートをまとめることができる。 c 食品の種類と特徴についての知識を、自分や家族の健康のために活用しようとしている。食品の調理性などについて、実験などを通じて科学的に取り組もうとしている。	授業プリント 調理実験・実習 授業観察 小テスト 調理実習レポート 振り返りシート 考査
	調理実験・実習	調理実験 調理実習	○	○	○	a 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 b 調理実習後に科学的な視点を持ち、レポートをまとめることができる。 c 調理実習に意欲、関心をもって取り組もうとしている。調理レポートの作成に意欲的に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	15	25
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	15	25
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	30	15	15
	思考・判断・表現	40	15	25
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30